



戦略的イノベーション創造プログラム  
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第3期 スマートインフラマネジメントシステムの構築 サブ課題 E-1

魅力的な国土・都市・地域づくりを評価するグリーンインフラに関する省庁連携基盤

## 研究開発テーマ 2

# グリーンインフラに関する 省庁連携のためのデータ基盤の構築



東京都立大学  
都市環境科学研究科 准教授

大澤 剛士

# テーマ2:研究開発の概要

## ■目的

### 基礎自治体におけるグリーンインフラの導入・推進を支援

- ・自然条件に加え、社会的な条件面からグリーンインフラの導入可能性を検討
- ・基礎自治体におけるグリーンインフラ推進を支援する基盤データ整備、ツール開発
- ・成果、データ、ツールのオープン化

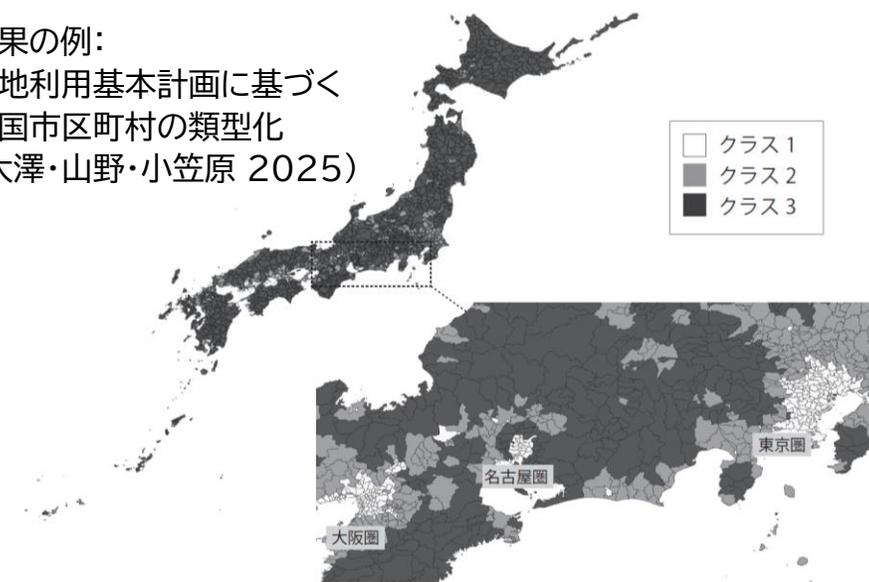
成果の例:  
緑地が残存しやすい社会的な条件  
(行政境界の周辺)  
(大澤・山野 2025)



## ■研究内容

- ・土地利用計画や自然災害の発生状況に基づく市区町村の行政計画とグリーンインフラ推進の関係性評価  
⇒ 導入しやすい、推進すべきグリーンインフラのタイプを検討
- ・社会制度に関するデータのオープン化  
⇒ 利用促進およびオープンサイエンスへの貢献
- ・研究成果の利活用支援ツール開発  
⇒ グリーンインフラを社会実装する支援

成果の例:  
土地利用基本計画に基づく  
全国市区町村の類型化  
(大澤・山野・小笠原 2025)

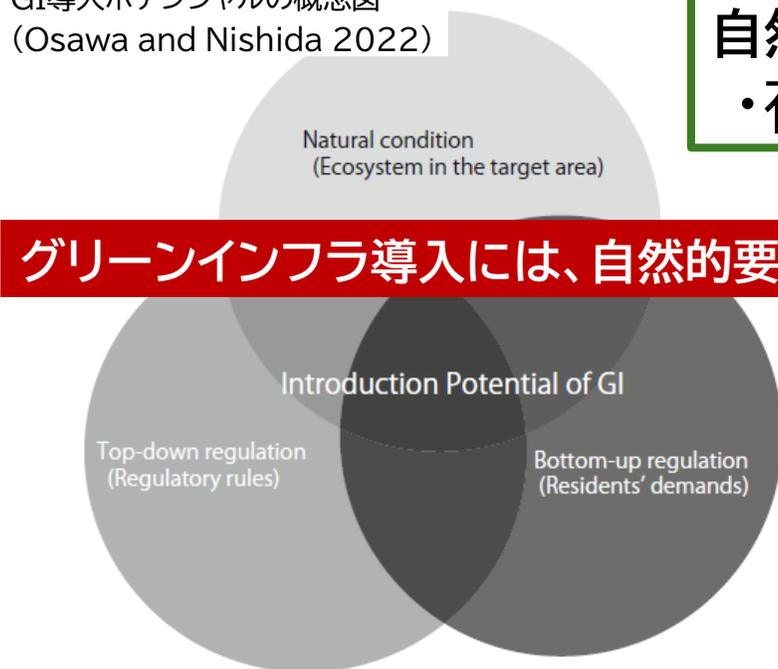


# テーマ2: 研究開発内容のポイント・先進性

## ■ 研究開発のポイント

### 自然科学と社会制度の両面を考慮したグリーンインフラの検討

GI導入ポテンシャルの概念図  
(Osawa and Nishida 2022)



#### 自然的要因

- ・存在する生態系と期待できる生態系サービス

グリーンインフラ導入には、自然的要因と社会的要因の両方を考慮する必要がある

#### 社会的要因

- ・法制度等の社会ルール
- ・受容性等、住民の理解

本テーマは  
特にここに注目

地域の自然環境を利用する考えである以上、グリーンインフラには必ず地域性がありますが、同時に社会制度等、共通的に検討できる部分も存在します。この検討材料となる基盤として国土レベルの土地利用計画データを利用しやすい形で再整備し、オープン化を推進することで、地域に合ったグリーンインフラを迅速かつ容易に検討できる世界の実現を目指します。

# テーマ2:社会実装の考え方

## ■社会実装の考え方

- ・主なターゲットは基礎自治体
- ・行政担当者が利用できる基盤データ、利用支援ツールの開発、提供
- ・誰でも自由に利用、加工、再配布可能なオープンソース、オープンデータを原則とすることで全国どこでも利用可能に
- ・国土交通データプラットフォーム(SIPテーマD)とも連携
- ・外部オープンデータ、公開API等を積極的に取り込みデータ連携を促進



国交省DPFに成果データを提供

## ■目指す社会の変化

### 土地利用計画にグリーンインフラを含める

グリーンインフラの導入を検討しろと言われても何を参考に何から手をつければいいのか困っている自治体が多いのが現状だと思います。そこで、自然条件と社会条件の両面から導入しやすいグリーンインフラ、推進すべきグリーンインフラを検討できる材料を提供し、“はじめの一步”を踏み出しやすくすることを目指しています。